

# 北海道における持続可能な物流の構築に向けて

2023.07.10

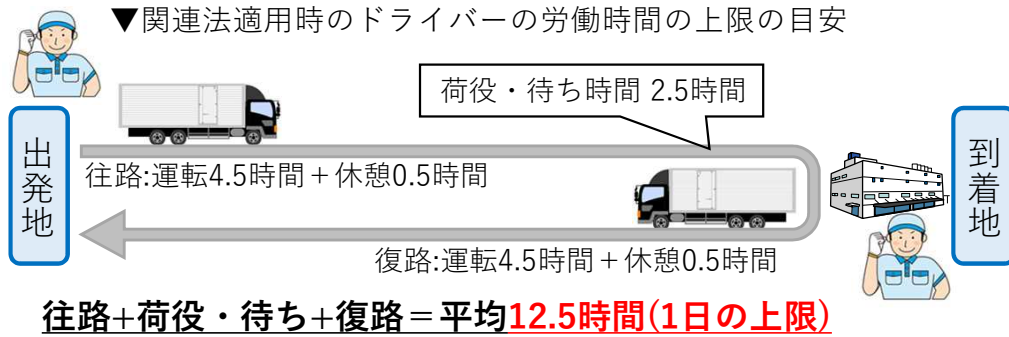
ヤマト運輸株式会社



# 1.北海道における「2024年問題」

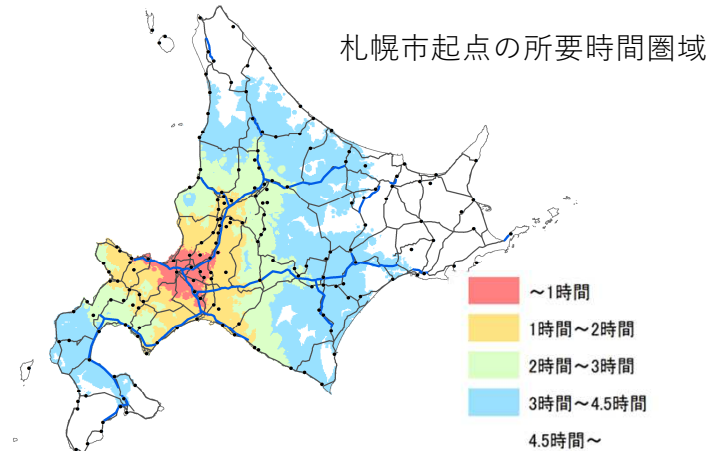
## ①2024年問題＝働き方改革関連法の適用

- 働き方改革関連法の適用により2024年4月から時間外労働の上限が960時間となる。ドライバーの労働環境は改善する一方稼働時間の減少により、走行距離が減少するため、輸送できる量も減少。
- 1日あたりの労働・拘束時間は平均12.5時間が上限となり、荷役・待ち時間を含めると**片道4.5時間以上の運行に影響**

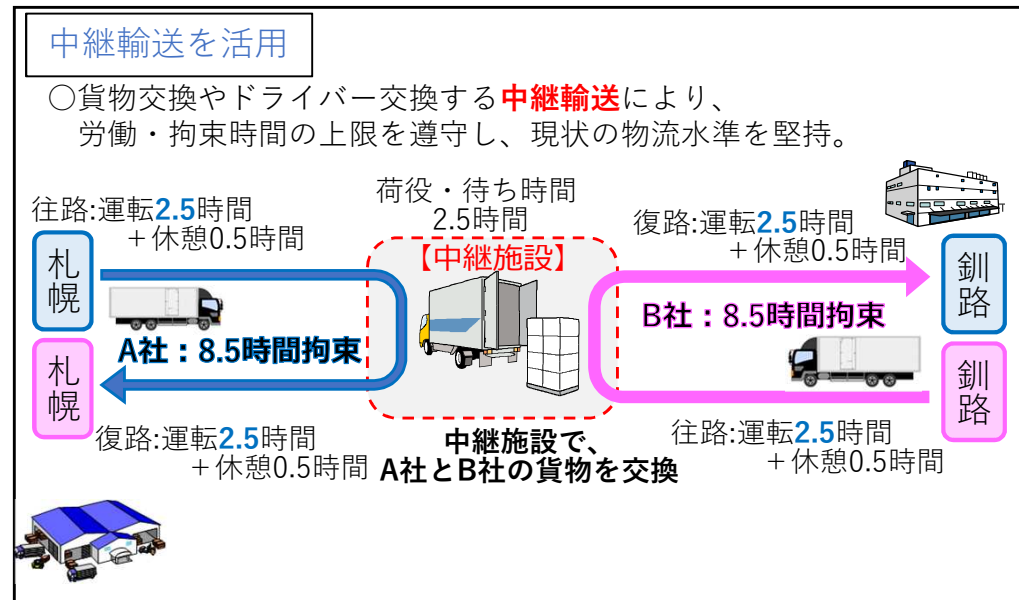
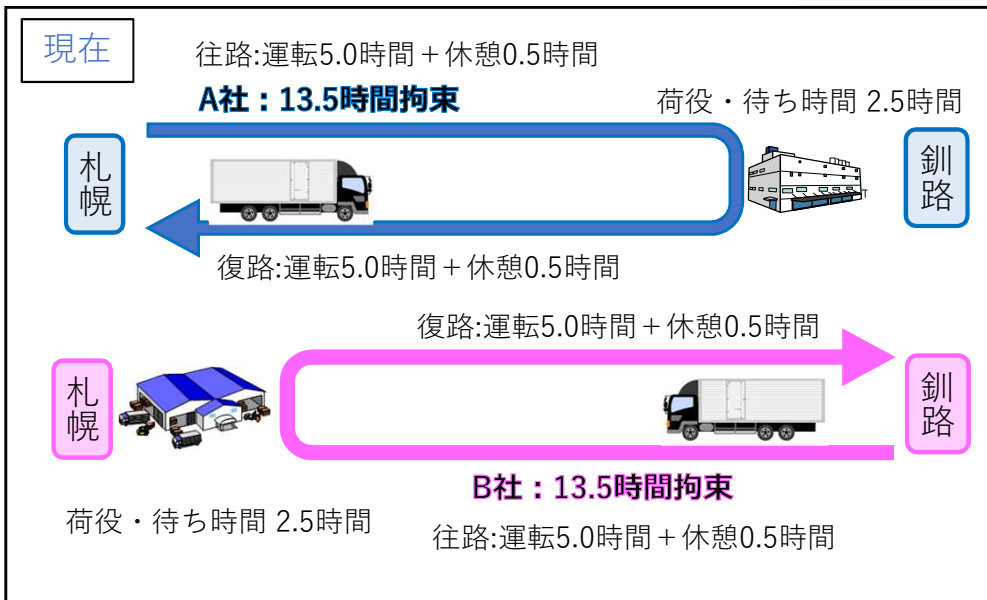


## ②2024年問題の影響を受ける北海道の物流

- 片道輸送時間4.5時間/日以上となる貨物流動に影響し遅延やコスト増が想定される。



## ③課題解決に向けて加速すべき取り組み



## 2.北海道開発局との連携による中継輸送の取り組み事例

### 道の駅「もち米の里☆なよろ」 ～ 北海道名寄市

#### 令和3年度の中継輸送の実証実験結果と得られた課題

##### 【取組内容】

- 令和3年11月9日～12日の4日間、道の駅もち米の里☆なよろにおいて、札幌～名寄～枝幸間など、4回の中継輸送（ヘッド交換）を実施。
- 労働環境の改善、輸送費用の低減、環境への負荷の軽減に効果があることを確認。
- R3年度の課題を受け、



##### 運送事業者の声

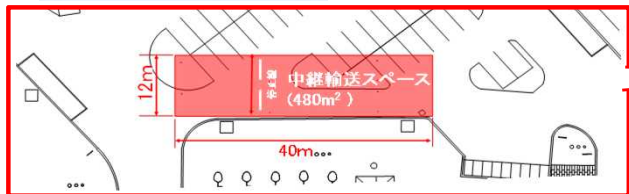
- 道の駅は幹線道路沿いに立地し、数も多く中継場所に適切。
- トレーラーを保有していない運送事業者も利用できるような仕組みもあるといいです。



R4年度は「ヘッド交換」に加え、「ドライバー交換」、「荷物積み替え」も実施

#### 令和4年度の中継輸送の実証実験結果

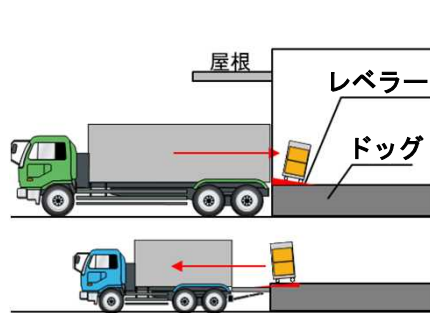
- 令和4年度は、ヘッド交換に最低限必要なスペース480m<sup>2</sup>(12m×40m)において、ドライバー交換、荷物積み替えが実施可能かを検証した。
- ヘッド交換は、積雪期も通常の除雪管理体制(昼間5cm)で可能なことを確認。
- ドライバー交換は、同スペース内で車両の点検も行うことが可能であることを確認。
- 荷物積み替えは、スペース内で常温品かつ手作業で積み替え可能な小口物の荷物であれば十分対応可能であることを確認。R3年度同様、いずれの輸送パターンにおいても労働環境の改善、輸送費用の低減、環境への負荷の軽減に効果があることを確認。



#### ヤマト運輸(株)名寄営業所での検証

- 道の駅で行うことができない重量のあるカゴ車（耐荷重700kg）の積み下ろしや、温度管理が必要な冷蔵冷凍品の荷物の積み替えは、当局と連携協力協定を締結しているヤマト運輸(株)名寄営業所にて検証を行った。
- リフトのないトラックによる重量のあるカゴ車の積み下ろしや、温度管理が必要な冷蔵冷凍品の取り扱い、専用の施設・設備※を整備できれば道の駅でも対応可能。

※（屋根・ドック・レベラー・一時保管スペース・冷凍冷蔵庫）



##### 運送事業者の主な声



道の駅での中継輸送は、札幌以外に中継拠点（支店、事業所等）を持たない企業に利便性が高いと考えます。道の駅は場所が確保されている点も良いと思います。  
運転手交代の時間が合わないとき、積み日、降ろし日に日程幅があるとき、悪天候のときなどに一時保管ができる場所があると助かります。



地方に拠点を持つ当社としましては、今後ますます中継輸送を推進し、2024年問題に対応したいと考えています。

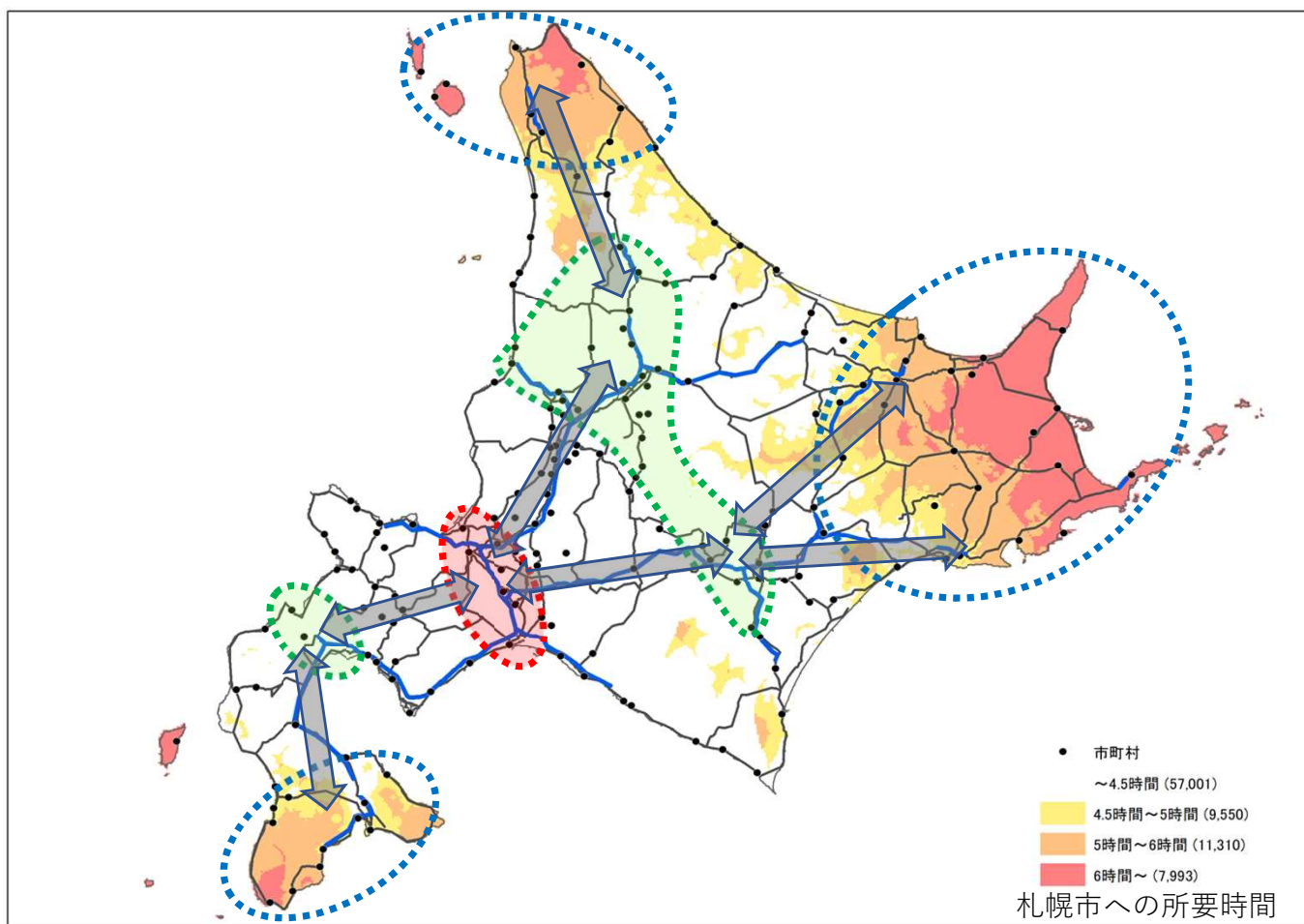
##### まとめ

- 新たな中継輸送パターンや中継輸送スペースについて検証を行った結果、本取り組みが有効であることを確認しました。
- 本実証実験で明らかになった効果、ニーズを踏まえ、中継輸送の実用化に向け引き続き取り組みを進めていきます。

### 3. 中継輸送の拠点施設の配置が有効な地域

- 片道の輸送時間が4.5時間地点の地域
- 貨物の集中地域（道央圏）と縁辺の生産空間の間に位置する地域

2024年4月から時間外労働時間の上限規制が適用されるまでに早急な展開が重要



○ 貨物輸送が集中する地域から離れた生産空間であり、中継輸送が求められる地域

○ 中継施設の配置が効果的な地域

○ 貨物輸送が集中する地域（札幌・千歳・苫小牧）

図. 中継輸送の拠点施設の配置が有効な地域